

図書館通信

松山城南高校
図書・情報委員会
R 2. 1
No 7

☆新年の読書におすすめの本

2020年になりました。冬休みは、どのように過ごしましたか。自分を高めるための読書はできたでしょうか？今年も皆さんに多くの本を紹介していければと思っています。寒い季節、暖かい図書館で読書を楽しんでください。さて、今年の干支は「子」ということで、図書館では以下の本を特設コーナーにて紹介しています。

『アルジャーノンに花束を』ダニエル・キイス著、小尾芙佐訳（早川書房）



主人公チャーリー・ゴードンは37歳だが知的年齢は6歳のまま。パン屋で働きながら精神遅延成人センターに通っていた。そんな彼に知能を上げる手術の話が舞い込んだ。「大学の先生が頭をよくしてくれる」。チャーリーはこの話に喜び、白ネズミのアルジャーノンを競争相手に検査を受ける。やがて手術によりチャーリーの知能は向上していく。天才に変貌した彼はさまざまな感情を知ることになるのだが…。

『風の歌を聴け』村上春樹著（講談社）



「完璧な文章などといったものは存在しない。完璧な絶望が存在しないよね。」ある年の夏、海辺の町に帰省した「僕」は、相棒の「鼠」と25メートルプール一杯分ばかりのビールを飲みながら何気ない日々を送る。女の子と出会ったり、ジュークボックスにかかるレコードを聴いたりしながら。作中に登場する音楽や映画にも触れてみてほしい、群像新人賞を受賞したデビュー作。

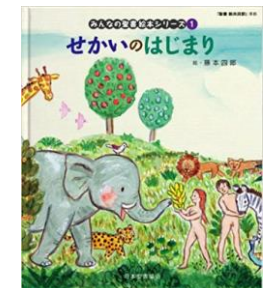
『現代日本文学大系84 花田清輝 杉浦明平 開高健 小田実集』（筑摩書房）



紹介するのは開高健の『パニック』。120年ぶりにササが実を結び、学者たちは、翌年の春にネズミが大量繁殖することを予測する。山林課にその警告が伝えられたが、役所ではしっかりした対策は取られないままだった。翌年、警告通り大量繁殖したねずみは町にあふれだし、山林の根をかじり、穀物倉を襲う。パニックに陥る人間は右往左往するばかり…。

☆図書館を訪れる理由

図書館を訪れる理由は様々です。本が好きで一日一冊は読みたい人。新聞や雑誌で情報収集したい人。今回はある3年生の話を紹介したいと思います。「合格した大学から課題が出され、幼児教育についてレポートを書かなければいけません。そのレポートを書くのに絵本を読む必要があるのですが、高校の図書館に絵本はありますか？」という質問がありました。もちろんあります。城南高校の図書館には絵本のコーナーがあり、『100万回生きたねこ』『くれよんのくろくん』『三びきやぎのがらがらどん』『あらしのよるにシリーズ』等々、幼い頃に誰もが読んだことのある絵本や、聖書に関する絵本があります。さらに昨年、聖書科の先生より絵本や紙芝居をたくさん寄贈していただきました。『スイミー』で知られるレオ・レオニの絵本もあります。幼児教育に興味のある人、子どもに読み聞かせをしてあげたい人、童心に返って安らぎたい人、どうぞ、図書館の絵本コーナーに立ち寄ってください。



☆返却日を守ろう

図書館で借りた本には返却期限があります。普段は、1週間借りることができます。長期の休み前には特別貸出期間となるため、返却日を忘れて延滞してしまう人が多いように思います。返却日を守り、皆が利用しやすい図書館にしていきましょう。

